

淀川水系
甲賀・湖南圏域河川整備計画
(変更)
計画概要説明資料

令和6年3月
滋 賀 県

目 次

1. 圏域、河川の概要	1
1.1 甲賀・湖南圏域の概要	1
1.2 河川の現状と課題	16
2. 河川整備計画の目標に関する事項	49
2.1 計画対象期間、計画対象河川	49
2.2 計画の目標	51
2.3 整備実施区間・調査検討区間・整備時期検討区間	61
3. 河川整備の実施に関する事項	63
3.1 河川工事の目的、種類および施工場所	63
3.2 河川の維持の目的、種類および施工場所	80
3.3 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項	82
4. 超過洪水時の被害を最小化するために必要な事項	84
4.1 平常時における関係機関の連携	84
4.2 洪水時の連携の強化	84
4.3 水防、避難体制の強化	85
4.4 水害に強いまちづくり	86
4.5 地域防災力の向上	86
4.6 超過洪水時の減災に効果のある河川管理施設の整備・保全	86
5. 附則資料（甲賀・湖南圏域位置図）	87

1. 圏域、河川の概要

1.1 甲賀・湖南圏域の概要

甲賀・湖南圏域^(注1)は、滋賀県南東部の琵琶湖岸から野洲川上流域に位置し、草津市、守山市、栗東市、野洲市(日野川流域を除く)、大津市(草津川上流部の一部)、甲賀市(一次信楽川、河合川および大戸川流域を除く)、湖南市(日野川流域を除く)の7市の淀川水系に属する一級河川(琵琶湖を含む)およびその流域を対象とします。圏域面積は約629km²となります。

圏域には、草津市、守山市、野洲市において琵琶湖へ直接流入する一級河川が16河川(国が管理している野洲川を含む)あります。

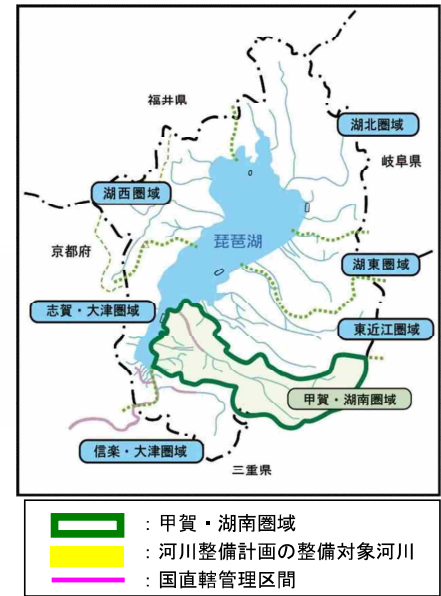
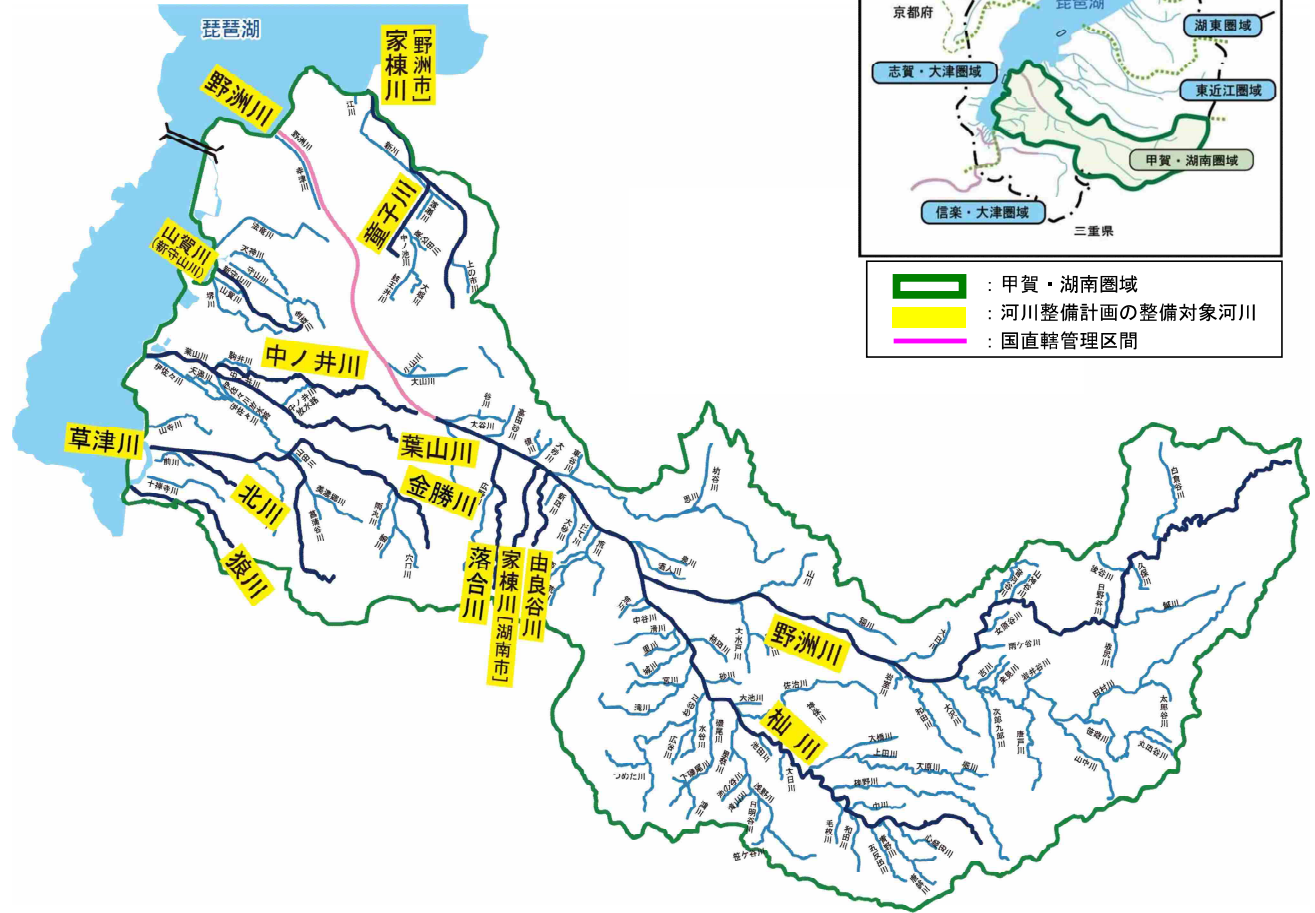
主要な河川としては、北から家棟川〔野洲市〕^(注2)、野洲川、山賀川(新守山川)、葉山川、草津川、十禪寺川、狼川等があります。

野洲川(指定区間)流域を構成する河川は、甲賀市と三重県の境に位置する御在所山(標高1,212m)、鎌ヶ岳(標高1,161m)、仙ヶ岳(標高961m)、三子岳(標高556m)、高畑山(標高773.3m)等に源を發し、山間部のV字谷を流下して野洲川に合流し、名神高速道路下流の栗東市から守山市付近に扇状地、湖岸に三角州を形成しています。また、当圏域の沖積地帯を流れる川は、葉山川、草津川、狼川、家棟川〔湖南市〕^(注2)に代表されるように河床が周辺地盤高よりも高いところを流れる天井川と、その間に下流になるにつれて流路が分派していく用排水路河川(いわゆる尻無川)等で構成されています。

(注1) 甲賀圏域の自治体：甲賀市、湖南市

湖南圏域の自治体：草津市、守山市、栗東市、野洲市、大津市

(注2) 家棟川の表記方法について、野洲市を流れる川を「家棟川〔野洲市〕」、湖南市を流れる川を「家棟川〔湖南市〕」とする。



甲賀・湖南圏域河川概要図

河川整備計画（本文）

出典・根拠

河川表

水系	淀川												
	第1次 支川名	第2次 支川名	第3次 支川名	第4次 支川名	第5次 支川名	第6次 支川名	第1次 支川名	第2次 支川名	第3次 支川名	第4次 支川名	第5次 支川名	第6次 支川名	
琵琶湖	狼川						琵琶湖			佐治川	神保川		
	十禅寺川									浅野川	里祭川		
	前川										池の谷川		
	山寺川										滝山川		
	草津川	北川									日明川		
		伯母川									笹ヶ谷川		
		金勝川	山田川							池田川			
			雨丸川							大日川			
			雅川	穴口川						大原川	大橋川		
		美濃郷川	葛蒲谷川								上田川		
	伊佐々川	天満川									堀川		
	萬山川	中ノ井川	駒井川							横野川			
			淵ヶ上川	石原川						毛枝川			
			百々川							中川			
		伊佐々川放水路								和田川			
	堺川									五反田川			
	山賀川									青野川	唐錦川		
	守山川	金森川								心経田川			
	天神川									穂谷川			
	法蔵川									山川			
	牽津川									稲川			
	野洲川	大山川	小山川							岩室川			
		宮川								大日川			
		大谷川	谷川							和田川			
		高田砂川								大沢川			
		落合川	広野川							田村川	吉川		
		大砂川									来見川		
		家棟川（湖南市）	由良谷川								次郎九郎川		
		愚川	華谷川								唐戸川		
			坊谷川								岩井谷川		
											山中川		
		新田川									笹路川	丸田谷川	
		大砂川									太郎谷川		
		だて川									南ヶ谷川		
		荒川	西山川								女原谷		
			荒川西流								菅羽谷川		
		泉川	瀧入川								山神谷川		
		旭川	荒川								日ノ谷川		
			中谷川								坂尻川		
			清川								瀬川		
			里川								久保川		
			徒田川								後谷川		
			城川								白倉谷川		
			滝川	宮川			江川						
			砂川				家棟川（野洲市）	新川	蓮瀬川				
			杉谷川	水谷川						童子川	中ノ池川	東込谷川	
				広谷川								姫王井川	
				つめた川								大堀川	
			磯尾川	下磯尾川	鴻川					上の市川			
			大池川					1	16	44	49	21	1
												合計	132

甲賀・湖南圏域河川概要図

河川整備計画（本文）

（地形・地質）

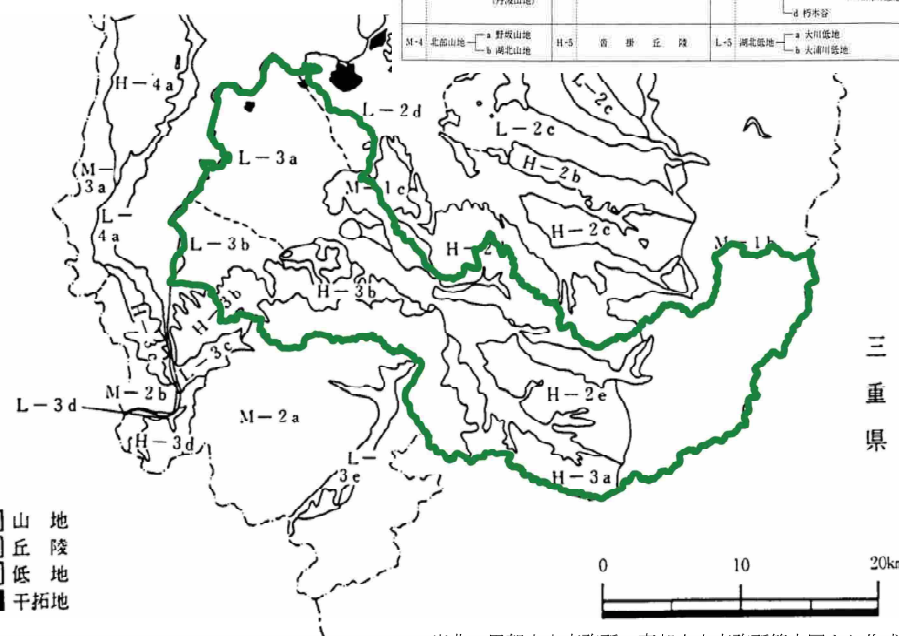
滋賀県の地形は琵琶湖を中心として周囲を北に野坂山地、東に伊吹山地、鈴鹿山脈が、西に比良山地、南に甲賀山地が取り囲み、全体として盆地地形を形成しています。琵琶湖の東方、南東側は、県内で最も広く丘陵・扇状地三角州等の低平地が分布しています。一方、琵琶湖の北方、西方は、一般的に低平地の発達が乏しく、急峻な山地が琵琶湖に迫っています。

甲賀圏域の地形は、東部の山々から中央北部の水口丘陵南沿いの谷を野洲川が、南部甲賀丘陵沿いの河谷を杣川こまがわが流れ、川筋に沿う形で平地が開けており、東端は鈴鹿山脈南嶺が北東から南西方向に走っています。

湖南圏域の地形は、圏域の中央部に野洲川が流れており、その扇状地を家棟川こまがわ〔野洲市〕、山賀川（新守山川）が流れ、それぞれ琵琶湖に注ぎます。また、南部の山々に端を発する金勝川、草津川、葉山川等が圏域南部の沖積地帯を流れ、多くは天井川となり琵琶湖に注ぎます。

出典・根拠

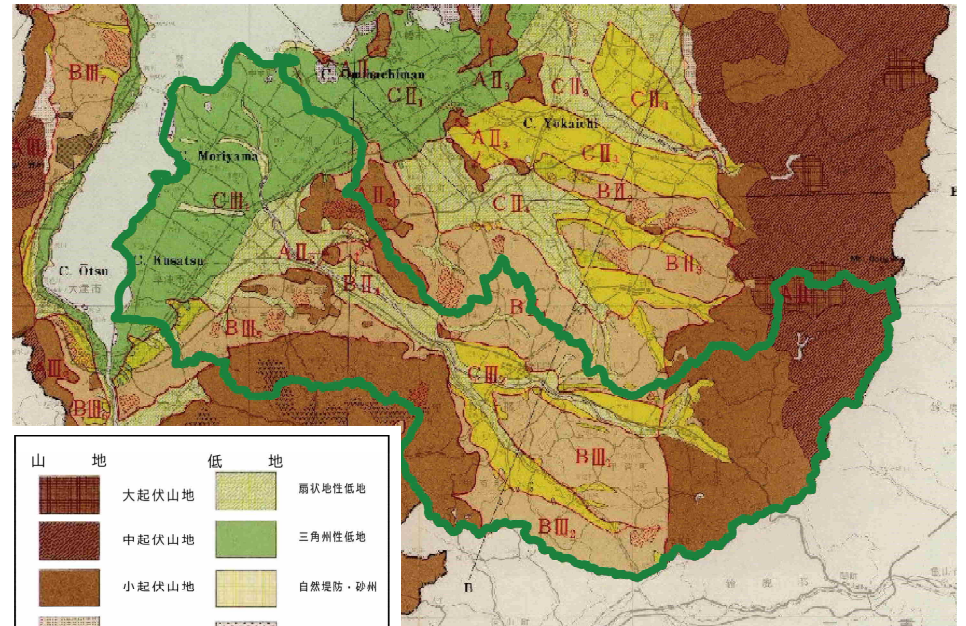
M	山 地	H	丘 陵 と 台 地	L	低 地
M-1	東部山地 a 伊吹山地 a' 山東山地 b 鈴鹿山脈 c 湖東島牧山地	H-1 伊吹山麓丘陵 H-2 鈴鹿山麓丘陵 a 多賀丘陵 b 八日市丘陵 c 日野丘陵 d 水口丘陵 e 甲賀丘陵	L-1 湖北低地 a 余呉川低地 b 高時川低地 c 姉川低地 d 山梨川低地	L-2 湖南低地 a 芥川、大上川低地 b 愛知川低地 c 八日市段丘群状地 d 日野川低地	
M-2	南部山地 a 田土信濃山地 b 龍崎山地	H-3 信濃山麓丘陵 a 甲南丘陵 b 瀬田・東東丘陵 c 膳所・石山丘陵 d 樽之口丘陵	L-3 湖南低地 a 野洲川低地 b 草津川低地 c 大戸川低地 d 大石森地 e 信楽盆地		
M-3	西部山地 a 比叡山地 b 比良山地 c 朽木山地（丹波山地）	H-4 比叡比良山麓丘陵 a 聖田丘陵 b 泰山寺野台地 c 栗庭野台地	L-4 湖西低地 a 北天津低地 b 比良山麓複合群状地 c 高島低地 d 朽木谷		
M-4	北部山地 a 野坂山地 b 湖北山地	H-5 菅 掛 丘 陵	L-5 湖北低地 a 大川低地 b 大浦川低地		



出典：甲賀土木事務所、南部土木事務所管内図より作成

滋賀県地形区分図

出典：滋賀県の自然／（財）滋賀県自然保護財団(1979)



	山地		低地
大起伏山地		扇状地性低地	
	中起伏山地		三角洲性低地
小起伏山地			自然堤防・砂州
	山麓地		埋立地
	丘陵地		干拓地
大起伏丘陵地			付加記号
小起伏丘陵地			人工改変地
	台地・段丘地		悪地地形
砂礫台地・段丘(上位)			
砂礫台地・段丘(下位)			

地形分類図

出典：国土交通省 HP

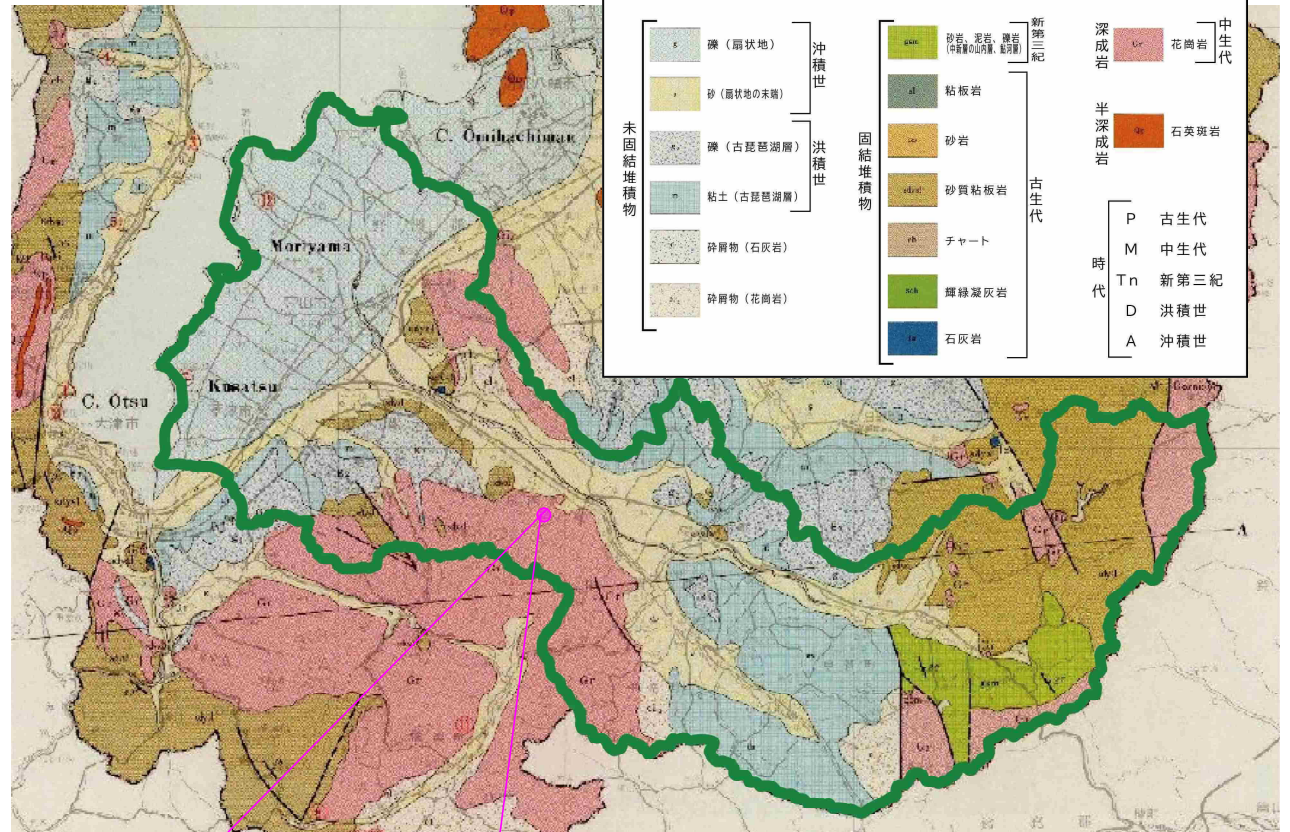
河川整備計画（本文）

滋賀県の地盤をなしている岩石・地層は、

- ① おもに古生代ペルム紀(2億9500万年前～2億4500万年前)に形成された石灰岩・緑色岩等
- ② おもに中生代三畳紀からジュラ紀(2億4500万年前～1億3500万年前)に形成された頁岩・チャート等
- ③ 中生代白亜紀から新生代古第三紀初期(1億3500万年前～5700万年前)に形成された花崗岩等の深成岩類、石英斑岩等の半深成岩類、溶結凝灰岩等の火山岩類
- ④ ③の形成に関わるマグマの活動に伴って形成された接触変成岩類
- ⑤ 新生代新第三紀中新世(約1600万年前)に形成された鮎河層群の礫岩・砂岩・泥岩等
- ⑥ 新生代新第三紀鮮新世から第四紀更新世(360万年前～30万年前)に形成された古琵琶湖層群の礫・砂・泥等からなる地層
- ⑦ 新生代第四紀更新世後期から完新世(30万年前～現在)に形成された段丘堆積物・沖積層等に大別することができます。

圏域の地質の分布を見ると、下流部の平野と中流部の河川沿いの低地には、沖積層が広がっています。中流部の湖南市一帯の山地はおもに花崗岩類から、上流部の甲賀市東部の山地は中・古生層、花崗岩類、鮎河層群の地層から形成されています。また、中流部の湖南市と甲賀市中・西部の丘陵は、おもに古琵琶湖層群のやや軟弱な地層からできています。花崗岩地帯は風化が著しく、侵食によって多量の砂礫を流出させています。また、古琵琶湖層群も侵食されやすく、泥砂の流出の激しい地帯となっています。

出典・根拠



土地分類図（表層地質図）

出典：国土交通省 HP



野洲川の古琵琶湖層（甲西中央橋上流 左岸）

河川整備計画（本文）

出典・根拠

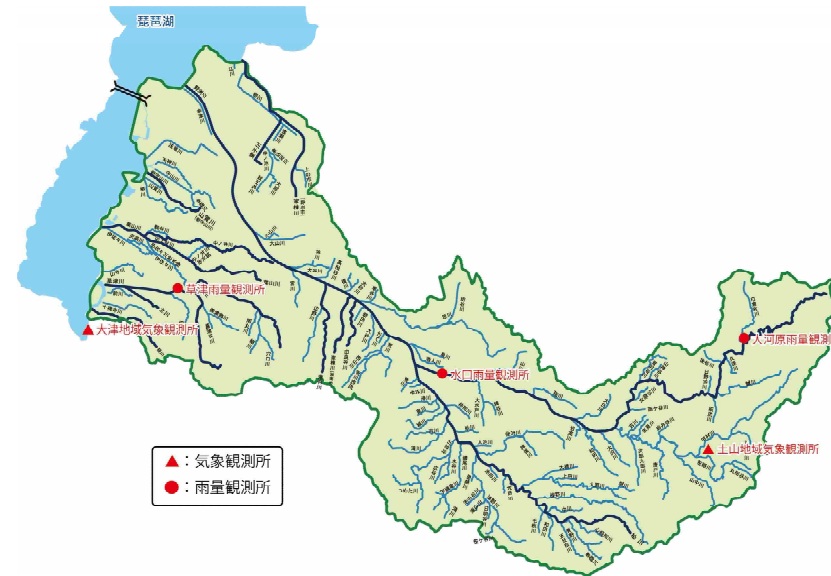
（気候）

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、日本海型気候区（北陸地方）、瀬戸内海型気候区、東日本型気候区（東海地方）が接した位置にあり、また、周囲を高い山々で囲まれています。このため、滋賀県の気候は、温暖な東日本・瀬戸内型と冬季に雪による降水量が多い日本海・中部山岳型の気候を相備えながら、琵琶湖の気候調節作用にも大きな影響を受けるため、県全体を一気候で特色付けられません。

甲賀圏域の気候は、温暖少雨の瀬戸内式の特徴を持っていますが、山地部に近づくにつれて準内陸的な気候になる特徴を持っています。近年 10 年間の平均気温は圏域上流部の土山気象観測所においては約 14.0℃です。

湖南圏域の気候は比較的温暖な瀬戸内気候で、近年 10 年間の平均気温は、琵琶湖岸の大津気象観測所において約 15.6℃と甲賀圏域より 1.6℃程度高くなっています。

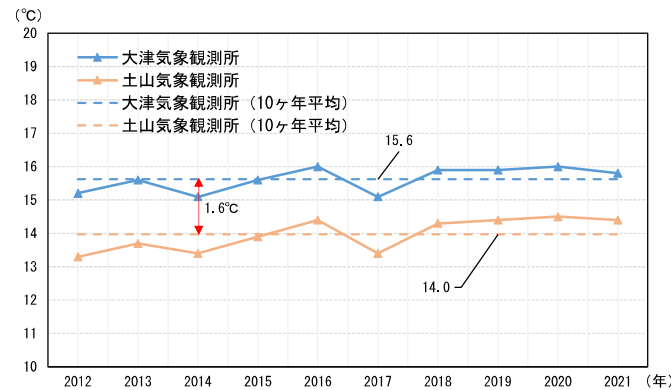
近年 10 年間の年降水量は、圏域下流部の草津雨量観測所、圏域中流部の水口雨量観測所において約 1,400～1,500mm、それに対して圏域上流部の大河原雨量観測所においては約 2,100mm と、圏域中・下流部の 1.4～1.5 倍程度となっています。圏域上流部は「坂は照る照る 鈴鹿は曇る あいの土山 雨が降る」と鈴鹿馬子唄でうたわれているように、降水量の多い地域です。



出典：気象庁ホームページ

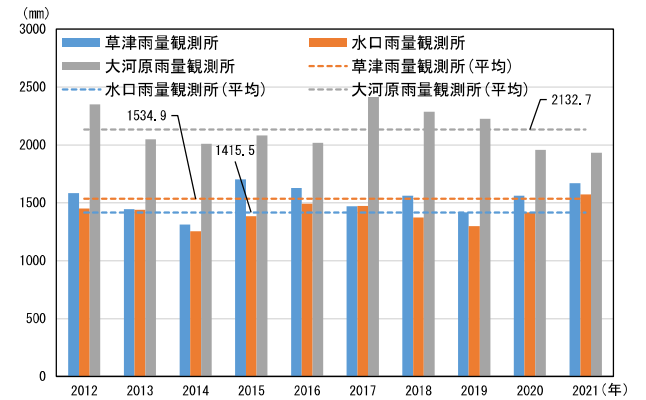
観測所位置図

近年 10 年間の年平均気温



出典：滋賀県 土木防災情報システム

近年 10 年間の年間降水量



出典：滋賀県 土木防災情報システム

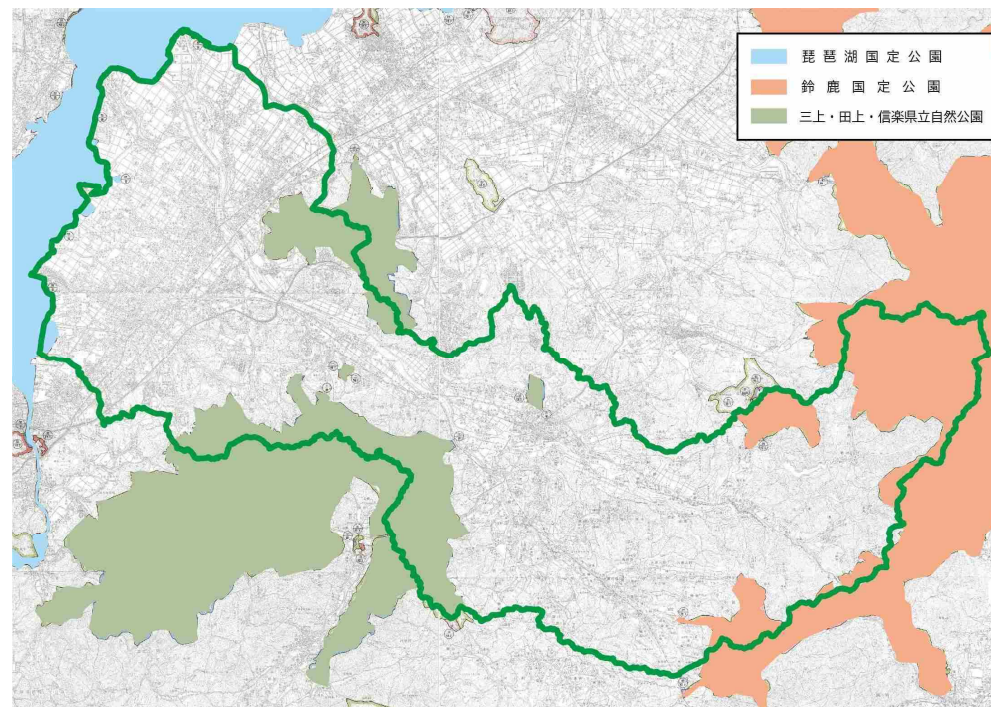
注）欠測期間を含むデータとなっています。

河川整備計画（本文）

（自然・景観）

自然や景観について見ると、琵琶湖が昭和 25 年に我が国で初めての国立公園として「琵琶湖国立公園」に指定され、豊かな自然と生物の宝庫となっています。滋賀県と三重県の境を南北に走る延長約 50 km、幅約 10 km の鈴鹿山脈一帯は、昭和 43 年に「鈴鹿国立公園」に指定され、特別天然記念物のニホンカモシカ等多くの鳥獣が生息しています。また、圏域中央部に点在する「三上・田上・信楽県立公園」は昭和 44 年に指定されています。このあたりの地質は大部分が花崗岩からなっており、特に風化浸食の激しい田上山地は、地形が変化に富み、湖南アルプスの名で親しまれています。

出典・根拠



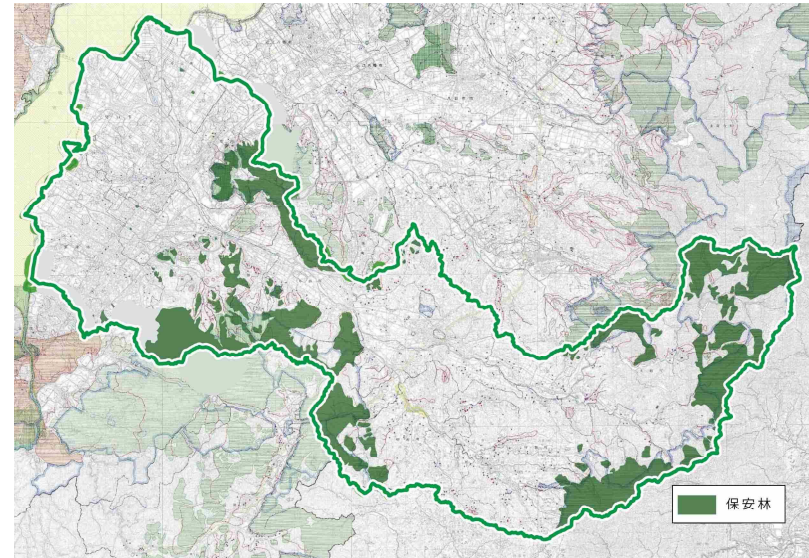
自然公園位置図

出典：滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 HP

河川整備計画（本文）

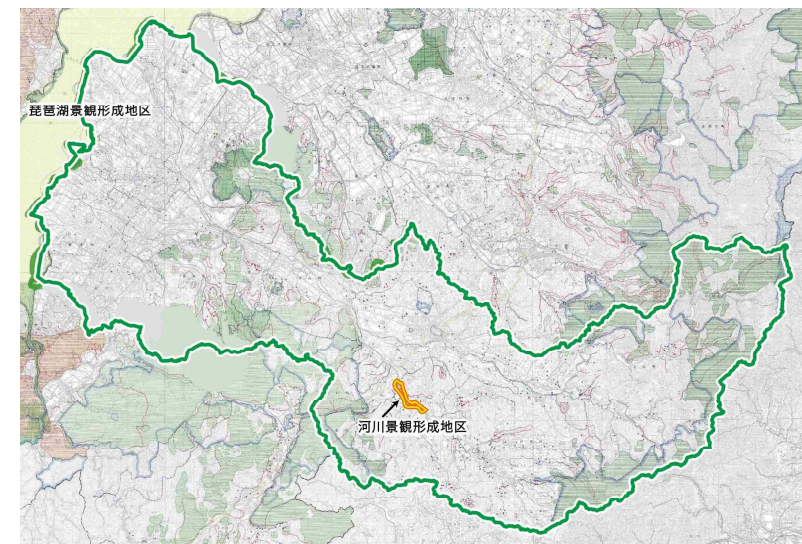
その他にも、森林法に基づく保安林が幅広く指定されています。また、各市の景観条例に基づき、琵琶湖岸は琵琶湖景観形成地域等に、杣川の甲賀市甲南町森尻にかかる杣川大橋から同町野田にかかる野田橋までの区間は河川景観形成地区に指定されています。

出典・根拠



保安林位置図

出典：滋賀県土地利用基本計画図（滋賀県、平成11年）



景観形成図

出典：土地利用（防災・保全等）現況図（滋賀県、平成8年）

河川整備計画（本文）

（歴史）

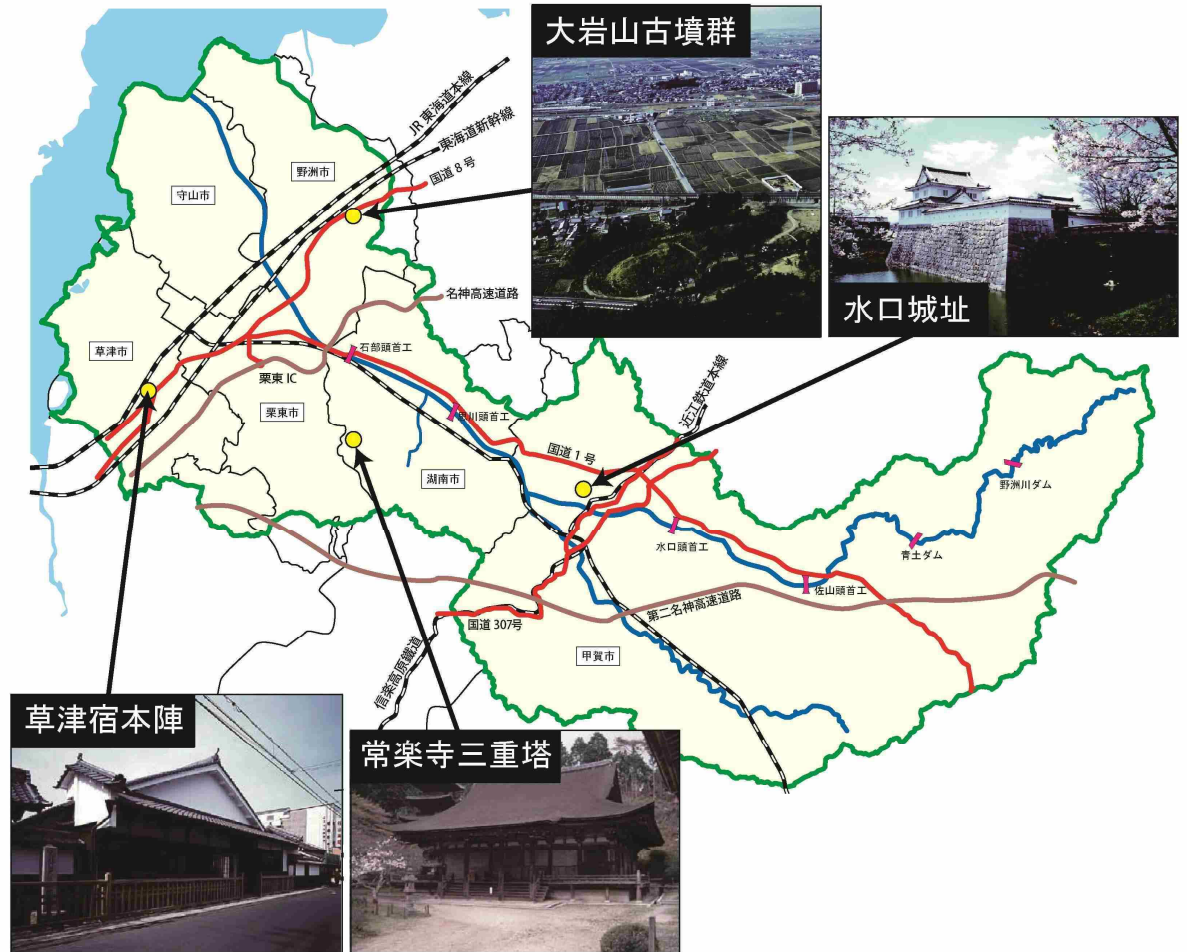
滋賀県は、地理的にも都として栄えた奈良・京都に近く、また、東国と西国または北陸とを結ぶ交通の要衝として、古くから歴史の表舞台に登場してきました。古代においては、大津宮や紫香楽宮が造営される等政治・文化の中心として脚光を浴びてきました。江戸時代に入ると、東海道や中山道等の主要な街道に沿って宿場町が栄えました。なかでも当圏域では、土山、水口、石部、草津、守山等の宿場町を中心に街道沿いに産業や文化が栄えました。

（文化財）

滋賀県は、美しい自然と、それぞれの時代が代表する豊かな歴史文化資産に恵まれ、国宝や文化財の数は、全国でも有数を誇っています。圏域の文化財は、国指定が260件、県指定が126件あります。

なかでも著名なものに、常楽寺三重塔(国宝・湖南市)、水口城跡(県史跡・甲賀市)、大岩山古墳群(国史跡・野洲市)、草津宿本陣(国史跡・草津市)等があります。

出典・根拠



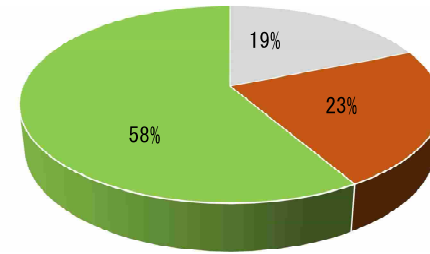
圏域内の主な文化財

出典：滋賀県県民分化課ホームページ
：滋賀県教育委員会ホームページ

河川整備計画（本文）

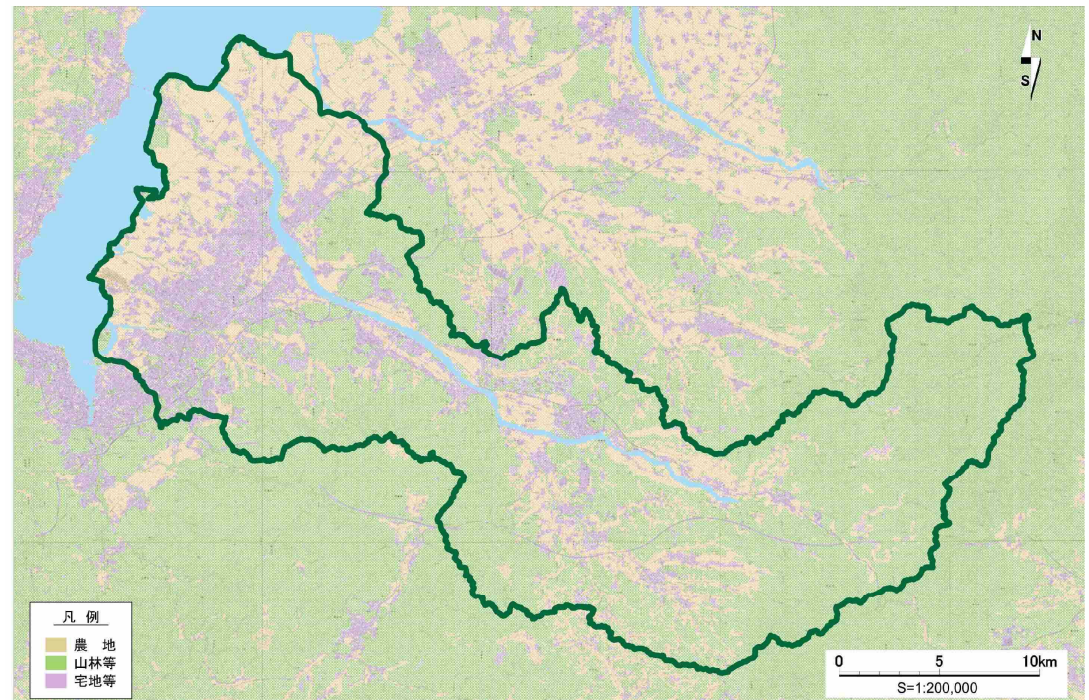
出典・根拠

（土地利用）
令和4年度の圏域の土地利用は、山林等が約58%と最も高く、次いで農地が約23%、宅地等が約19%となっています。



■ 宅地等 ■ 農地 ■ 山林等

土地利用種別面積（令和4年）



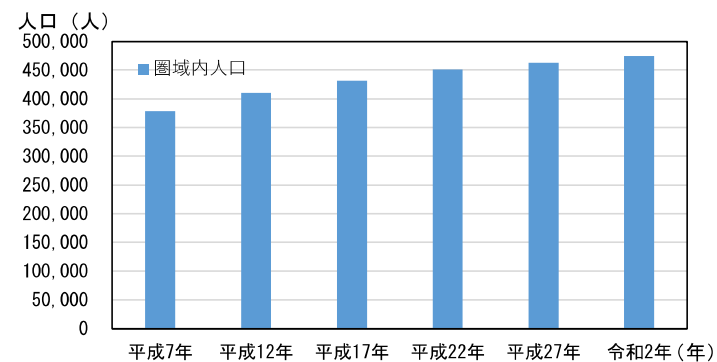
出典：国土交通省土地利用メッシュデータ（令和4年）
土地利用図（令和4年）

河川整備計画（本文）

（人口）

令和2年の圏域内の人口は、約47万人で県の約34%を占めます。圏域内の人口変動傾向は平成7年から令和2年にかけて増加傾向です。

出典・根拠



圏域内の人口

出典：令和2年国勢調査

河川整備計画（本文）

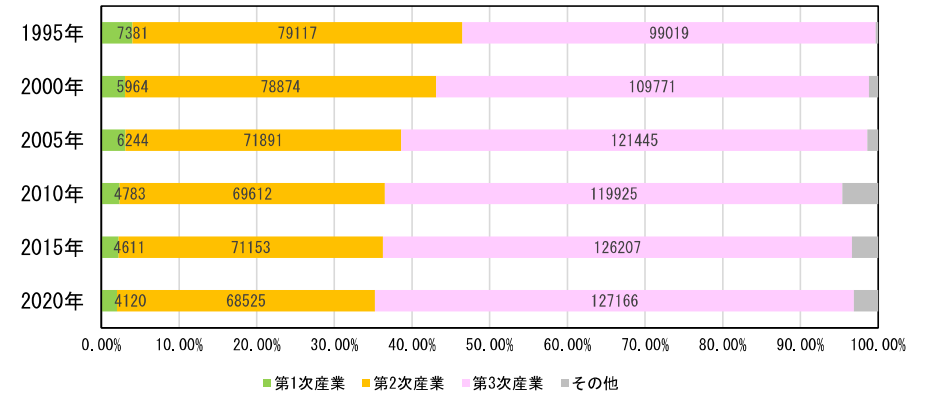
（産業）

令和2年の圏域内における産業別就業人口構成比を見ると、第1次産業就業者は約0.4万人(2.0%)、第2次産業就業者は約6.9万人(33.2%)、第3次産業就業者は約12.7万人(61.7%)、その他分類できない産業が約0.6万人(3.1%)となっており、第3次産業の割合が高くなっています。

産業大分類別に見ると「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の就業者が特に多くなっています。

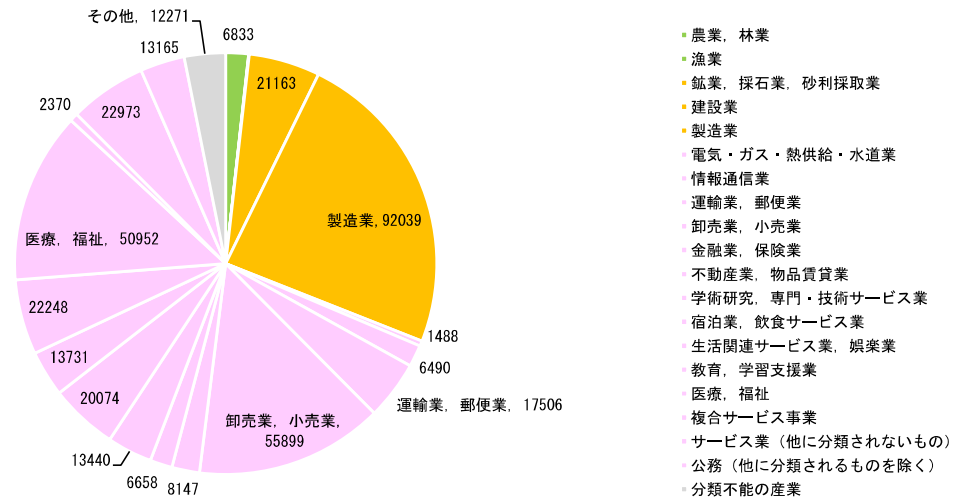
出典・根拠

圏域内の産業別人口



出典：令和2年国勢調査

圏域内従業員の内訳



出典：令和2年国勢調査

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（交通）

圏域の交通網は、国道1号が旧東海道と並行して東西に、国道8号や名神高速道路が南北に通っています。平成20年2月には、圏域の交通事情に大きな変革をもたらす近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）が開通し、令和4年現在さらなる円滑交通確保の為、6車線化工事が進められています。鉄道は、JR東海道新幹線、JR東海道本線、JR草津線、近江鉄道本線、信楽高原鐵道の5路線が通っています。このように、甲賀・湖南圏域は、京阪神と名古屋・東京等を結ぶ重要な交通機関が集中しています。



主な圏域内の交通

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（農業）

圏域の平野部の水田では、稲作を基幹に麦・大豆等の土地利用型農業が営まれ、平坦地から湖辺にかけては施設野菜や花き、果樹等が栽培されています。また、丘陵地や山間の樹園地では、茶の生産が盛んで、「近江茶」の一大生産地を形成しており、県内産地の9割を占めています。

（漁業）

圏域内の漁業としては、野洲川上流や田村川では、アユ、ニジマス、アマゴ、イワナ、ウナギ、コイ、フナおよびワカサギを対象とする河川漁業が行われています。

また、琵琶湖では、湖岸から沖合に向かい矢印型に網を張り、湖岸によってきた魚の習性をうまく利用し、「つぼ」と呼ばれる部分に誘導し閉じこめて魚を獲るえり（小型定置網）漁をはじめさまざまな漁法による漁業が営まれ、アユやフナ、ホンモロコなど多様な「湖魚」が捕獲されています。

さらに、平湖、赤野井湾および木浜内湖では、イケチョウガイを用いた淡水真珠養殖業が営まれています。

単位：1,000万円

市町村	市町村コード	農業 産出額 ①+②+③	耕 種										畜 産										加 工 農産物 ③	
			小 計 ①	米	麦 類	雑 穀	豆 類	いも類	野 菜	果 実	花 き	工 芸 農作物	茶	その他 作物	小 計 ②	肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	その他 畜産物			
																					鶏 卵	ブロイラー		畜産物
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)		
大 津 市	201	178	170	125	0	0	1	3	35	2	x	0	0	x	8	1	0	0	-	8	8	-	-	0
彦 根 市	202	282	274	201	3	0	12	1	51	3	2	-	-	1	8	-	3	x	-	5	x	-	-	-
長 浜 市	203	717	709	584	8	3	22	5	63	7	x	0	0	x	7	0	2	x	-	5	0	x	-	0
近 江 八 幡 市	204	859	543	304	11	1	29	0	182	1	15	0	-	1	317	222	44	41	x	38	38	-	x	-
草 津 市	206	250	248	97	1	-	4	7	138	1	0	-	-	0	1	0	-	-	-	1	0	x	-	-
守 山 市	207	245	235	127	3	-	8	2	68	4	21	0	0	1	10	3	-	-	-	7	0	x	-	0
栗 東 市	208	92	91	43	1	-	2	1	41	1	3	0	-	0	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-
甲 賀 市	209	519	404	286	1	0	5	5	54	1	x	42	42	x	100	5	72	57	-	24	24	-	-	14
野 洲 市	210	227	227	166	4	-	20	0	32	1	3	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
湖 南 市	211	86	62	45	0	-	2	1	11	0	2	0	-	0	25	24	-	-	-	1	x	-	-	-
高 島 市	212	642	451	348	1	1	3	6	73	11	x	1	0	x	191	139	46	42	x	6	6	-	x	0
東 近 江 市	213	1,094	947	625	11	2	41	9	207	15	34	1	0	3	148	77	51	43	-	19	19	-	-	0
米 原 市	214	209	209	155	1	1	4	10	31	2	x	0	0	x	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
日 野 町	383	217	140	127	1	0	1	1	8	-	1	1	1	1	77	34	19	16	x	-	-	-	x	0
竜 王 町	384	288	144	96	1	0	6	4	27	6	3	0	0	1	144	135	5	x	-	4	x	-	-	0
愛 荘 町	425	144	136	104	1	-	13	1	14	0	2	0	-	0	9	2	7	x	-	-	-	-	-	-
豊 郷 町	441	37	35	27	1	-	1	0	4	-	x	0	-	x	3	-	3	x	-	-	-	-	-	-
甲 良 町	442	55	55	40	1	-	4	0	7	1	1	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
多 賀 町	443	42	37	27	1	2	1	0	6	0	0	-	-	0	5	0	5	x	-	-	-	-	-	-

出典：農林水産省 令和2年市町村別農業産出額

茶の産出額 = 【圏域関連市 42】 + 【それ以外市町 1】 （単位：1000万）
 98% 2%

河川整備計画（本文）

（林業）

圏域の上流部は豊かな森林資源を背景にして、歴史的に林業活動が盛んであった地域であり、「甲賀ヒノキ」と呼ばれる銘木の産地等が存在しています。圏域の下流部では人口流入に伴う住宅建築用の木材需要も高く、それらに応えるべく森林組合を始めとする関係団体では間伐材の有効利用や大規模な木材加工工場との連携等の取り組みを行っています。

また、森林レクリエーションの機会や体験施設も多く、登山、ハイキング等も盛んな地域で、里山を維持するための取り組み等、民間の活発な活動が行われています。

（その他の産業）

地場産業としては、甲賀武士の活躍と結びついて、薬草を使った「くすり」の製造が行われてきました。

観光資源としては、国指定天然記念物である平松のウツクシマツ自生地(湖南市)、聖徳太子が建立したといわれる油日神社(重要文化財・国史跡・甲賀市)、室町時代に岩倉城主馬淵定信が再建した大佐原神社(国宝・野洲市)、東海道五十三次の51番目の宿場町としてにぎわった石部宿場町(湖南市)、52番目の宿場町としてにぎわった草津宿(草津市)、文政5年(1822)に野洲川の渡し場の目印として建てられた東海道の中で最大級の横田渡常夜燈(湖南市～甲賀市)、江戸時代に建てられた忍者屋敷と伝えられる甲賀流忍術屋敷(甲賀市)等があります。

出典・根拠



甲賀ヒノキを使用した施設「甲賀木彩館（甲賀市甲賀町岩室）」

出典：滋賀県 HP より